

【水の力】

福岡県 筑陽学園中学校

二年 小島 夢華

「また、火事だ。」

この春休み、日本各地で山火事が発生した。もともと春は山火事が多い季節らしいが、雨不足による乾燥によって火事が拡大したとニュースで知った。ここ数年、地震や水害による自然災害が増えたように私は感じている。その中でも水害は、私たちの生活に密接に関係している。実際に私が小学校まで住んでいた地域では大雨のため河川が増水して大きな被害を受けた。私も母と姉と三人で高台にある祖母の家へ避難した。その時は、家や友達大丈夫かなと、とても不安だった。水は私達の生活を脅かす危険がある。その一方で、飲水やお風呂、洗濯など様々なものに欠かせない生命の源でもある。水がなければ植物は育たないし、人間や動物は生きていけない。

「水」について考えているうちに私は二人の人物を思い浮かべた。まず、中村哲さんだ。中村哲さんは、福岡県朝倉市の山田堰をモデルにした灌漑設備によって、アフガニスタンの人々の健康を守ろうとした医師だ。現地農業の基盤を作り出し、多くの人々に恵みをもたらした。「百の診療所より一本の用水路」を唱え、アフガニスタンの人々の健康を「水」によって、守ろうとした。私は母と、福岡県朝倉市にある山田堰を見に行ったことがある。昔の人々の知恵が、朝倉の人々の命を守り、後には中村哲医師の手によって、アフガニスタンの人々の命を救ったのだ。中村哲さんの功績を知り、「水」によって人々の命を救おうとしたことに感動した。

山田堰で中村哲さんについて学んだときに、もう一人の人物のことを思い出した。それは、私が幼稚園生の頃に住んでいた台湾という国で、中村哲さんと同じように、台湾で用水路を建設し、現地農業の基盤を作り出した八田與一さんだ。台湾には不毛の大地と呼ばれた、嘉南平原が

ある。八田與一さんは当事、東洋一の規模である「烏山頭ダム」と総延長一万六千キロメートルに及ぶ給排水路を完成させた人物だ。その功績で嘉南平原は、台湾一の穀倉地帯となった。台湾に住んでいるときに、アニメ映画を見て、八田與一さんのことを知った。そして、幼いながら、「水」の大切さを感じたことを思い出した。

私は、中村哲さんと八田與一さんの功績から、水を無駄なく有効に使うことで、人々の生活と健康を守り、命を救うのだと知った。そして、水は生命の源であるのだと感じた。水は、時には命を奪う恐ろしい災害を巻き起こす。しかし、それ以上に、私たちの生活に欠かせない資源でもある。私達は、今こそ先人たちが残した学びや知恵を活かして、自分たちの生活を守っていかねければいけないのではないかと考えた。私は水の無駄使いをしないことや、身近にある自然を守ることで、未来へつなぐ「水」を守っていききたいと思う。私一人でできることは小さな事かもしれないが、これから水の大切さを伝え、有効に利用することで、私達と私達につながる命を守っていききたいと思う。限りある水の力で。